

口は健康のもと Vol.186

無味乾燥 ～「乾燥」編～

唾液不足で口腔乾燥

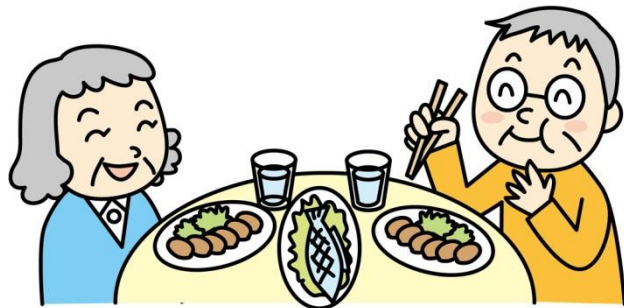
先月は「無味」編として味覚障害のお話でしたが、今回は「乾燥」編として口腔乾燥症について、無味乾燥な内容にならないようお話させていただきます。

唾液（つば）は、口の中を湿潤に保ち、食物の咀嚼（かみ砕く）や嚥下（のみこみ）を容易にします。他にも粘膜を守る保護作用、細菌繁殖を抑える抗菌作用、消化作用など重要な役割があります。よって、唾液が少なくなると様々な問題が起こります。

口腔乾燥症は、唾液の分泌量が低下して口の中が乾いた状態を言いますが、自覚症状で乾きを訴える場合も含まれます。症状は、口の中のネバネバ感やヒリヒリ感などの不快感や、虫歯、歯周病、口臭、摂食障害（食べづらい）、構音障害（しゃべりづらい）、嚥下障害（のみこみづらい）などの症状もあります。

原因は、加齢、ストレス、薬の副作用、糖尿病やシェーグレン症候群などの全身疾患、口呼吸（鼻疾患等で口で呼吸する）など様々です。治療は、水分補給、洗口液、保湿ジェル、人工唾液などで口の中を湿潤に保つ対処療法を行うつつ、原因を除去することで改善できる場合は原因療法を行います。

口腔乾燥症で悩んでおられる方は、お気軽にご相談ください。



奥羽大学歯学部附属病院
口腔外科 講師 川原 一郎